



・本日の議題

天授庵(てんじゅあん) 京都が誇る紅葉の名所

- ①工事の現況と今後の予定(専務)
- ②各現場状況報告(又は問題点)
- ③その他

(注) 安全大会の時刻は18:00(集合次第)~19:00とします。

その後は、自由参加としますので適時解散してください。

議題①: 工事の現況と今後の予定

お疲れ様です。一段と寒さが際立つ季節となり、周りやメディアでも体調を崩す方の話をよく耳にします。「秋バテ」とも呼ばれており夏の疲れがそのまま溜まっている状態で体力を消耗することで、自律神経の乱れや血行不良が引き起こされるといわれています。秋になっても体のだるさや食欲不振、微熱が続く場合は秋バテの可能性もあるので注意しましょう。

秋バテを回復するには生活習慣を季節に合わせ、飲み物や食べ物を冷たい物から温かい物へと切り替えましょう。そして大事なことが睡眠です。体調不良を治すためには、十分な睡眠時間を確保しましょう。気温差や雨の情報を確認し、服装をこまめに調節することや、食事にも気を遣うなど、自己管理をお願いします。

さて、現状の予定案件につきまして、来年令和6年4月頃に数件の内定をいただけている状況にあります。来年度も引き続き今期同様、物件数や物件規模ともに安定した一年になるように現在各関係各社様と調整を図っている状況にあります。

しかし、物件獲得に向け積算をする中で失注するケースも多く、最近では特にコンクリートガラ処分費の高騰や運搬車両の手配が付かない等のケースも当社や周りの関係各社さんの中でもよく耳にします。

当然、処分費高騰やガラ出しの遅延に伴い当然工事費の増加も発生します。昨今の我々解体業界の周りに起きている環境の変化にただ呑み込まれ本来達成見込みのあった利益率を損なわないよう、現場乗り込みから仮囲い・足場→内装→解体前段取り→躯体解体→基礎解体→外構という一連の解体工事の全体像をよくイメージ把握してもらい、その流れの中で日々現場として、全体工事価格の高騰を抑えるべく削減できる取り組みや新たな案を



会社全体で共有し、更なる安定した物量確保に向け全職員一丸となり頑張ってもらいましょう。そして明日の現場や次の現場は皆さんの日々積み重ねた安全施工の積み重ねによって出来ています。家族や仲間との何気ない明日をこれからも繰り返していけることが何より一番の幸せだと思います。続き安全第一でよろしくお願い致します。

ご安全に

※当社としての基本的心得※

1. ヘルメット・ハーネス・安全靴等作業に適した**保護具適正使用の徹底**に努める「基本は毎日習慣に」
2. 場内の重機作業エリアとの**区画整備・安全通路区画整備の徹底**に努める「重機接触は即死亡災害」
3. 場内及び現場周辺道路等の**清掃を定期的に行い美化**に努める「きれいな現場では事故は起きない」
4. 壁倒し後のガラ受けや**犬走の掃除**を毎度忘れずに「そのまま噛んだら足場や近隣様所有物を破損してしまう」
5. **現場内無線連携**(段取り・合図・居場所確認)の確立化を徹底する「見えないところも見える」
6. 高所作業時**ハーネスの2丁掛**の意味についてもう一度考えてみよう「掛替時に災害に隙を与えない」
7. 直近上位や元請様に**年齢関係なく親切丁寧な会話**を誠意をもって対話する「良心は巡って帰ってくる」
8. 近隣の方々へ日頃我々の仕事のために騒音振動など迷惑を掛けているという意識を持ち、**挨拶や清掃で気持ちを返す**「気持ちは伝わる」
9. **重機配管カバー**は全部取付できているか? 「今一度確認!」※破裂 → 車、家等付着 → 清掃処置(損失大)
10. 解体工事を行う上で**必要設備資機材**はきちんと揃っているか? 「足りなければ手配連絡を!」
11. **熱中症に向けて意識**を高めよう「対策や有事の対応をおさらいしよう!」
12. 有事(災害や事故)や協議事項等の**事案が発生した場合は必ず会社へ連絡**する! 「本部にお客先から連絡が着て知ったのでは遅い! =印象が大変悪い!」
13. 11月の玉掛ワイヤーの点検職は… **赤** です。 11月20日(月) 一斉点検

以上を基本的考えとして日々安全現場を構築していきましょう

ご安全に

第1節 解体工作物の種類と構造

1. 建物

(1) 鉄筋コンクリート造

鉄筋コンクリート造（以下、RC造という）は、鉄筋を配筋した型枠の中にコンクリートを打設して固めたもので、鉄筋とコンクリートが一体となって両者の短所を補い、長所を利用した合理的な構造である。

我が国におけるRC造の構造形式は、明治末期に欧米から輸入されたものであるが、1923年（大正12年）の関東大震災及び幾多の震災の経験を教訓として、耐震建物の設計法と施工法の研究開発が積極的に行われたことにより、現在では、構造形式が多種多様化してきている。

また、RC造施工の合理化等も行われ、在来工法であるコンクリートの現場打込み方式に加え、工場生産された部材を組合わせた合成構造の形式の建物も数多く建設されている。

RC造に使用する材料のうちコンクリートは各種強度の普通コンクリート及び軽量コンクリート、鉄筋は丸鋼及び各種強度の異形鉄筋などが建物の構造形式に応じて適切に組合わせて用いられている。

① ラーメン式鉄筋コンクリート造

ラーメン式鉄筋コンクリート造（以下、ラーメン式RC造という）は建物の主要骨組みが柱と梁で構成され、かつ床や壁が一体となっている構造である。（図2-1-1）。

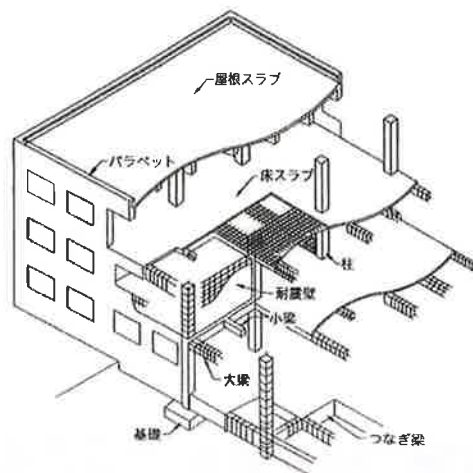


図2-1-1 ラーメン式RC造の概要

ラーメン式RC造は、原則として高さが20m以下の建物に用いられているが、20mを超える場合でも、建物の形状及び鉄筋の量や加工形状等の規定された条件に適合すれば、全階又は上階の部分をラーメン式RC造とすることができるのでこうした例は少なくない。

ラーメン式RC造は、RC造の構造形式の中では最も例が多く、事務所ビル、学校などいろいろな用途の建物に用いられている。

② 壁式鉄筋コンクリート造

壁式鉄筋コンクリート造（以下、壁式RC造という）は、ラーメン式RC造でいう柱・梁を壁の中に組み込んだ耐力壁と床が一体で形成され、いわゆる柱と梁が見えない構造である（図2-1-2）。

壁式RC造は、5階建以下の集合住宅の構造の代表的なものとして広く用いられている。また最近では、ラーメン式RC造と壁式RC造を併用した壁式ラーメン鉄筋コンクリート造が開発され、11階以下の高層住宅に多く用いられている。これは壁式RC造のけた方向を偏平な壁柱と梁からなる壁式ラーメンとした構造である。

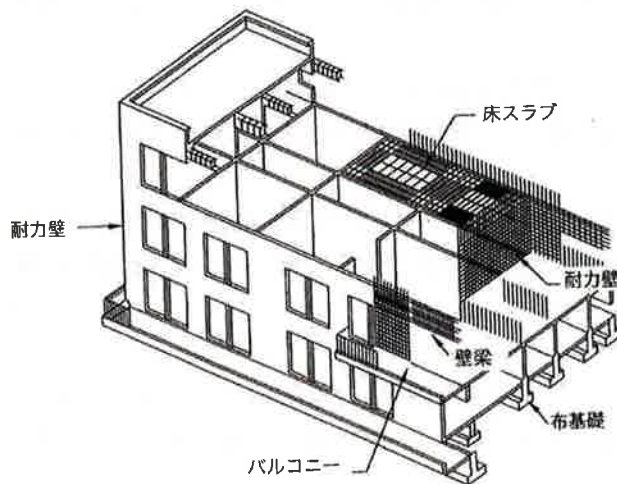


図2-1-2 壁式RC造の概要

③ 壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造

壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造（以下、壁式プレキャストRC造という）は壁式RC造の壁や床を壁板・床板等に分割して工場で製作し、現場でそれらの板を相互に組立て、溶接及び後打ちコンクリート等で接合した構造である（図2-1-3）。

壁式プレキャストRC造は、公営住宅をはじめ集合住宅として5階建て以下のものが多いが、6階建てから11階建てのものも建設されている。

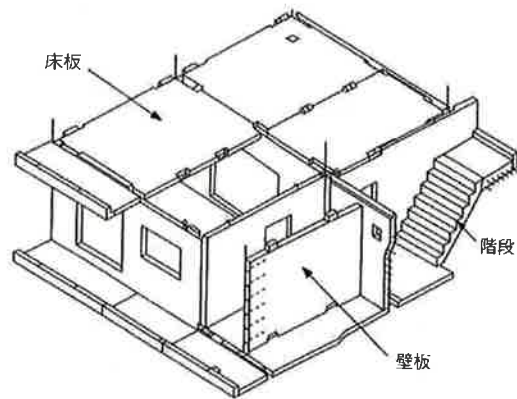


図2-1-3 壁式プレキャストRC造の概要

④ ラーメン式プレキャスト鉄筋コンクリート造

ラーメン式プレキャスト鉄筋コンクリート造（以下、ラーメン式プレキャストRC造又はRPC造という）は、ラーメン式RC造の主要部材である柱・梁をRC造のプレキャスト（以下、PCaという）部材として工場で製作し、これらを現場で組立て、後打ちコンクリート及び鉄筋のスリーブジョイント等で接合する構造である（図2-1-4）。

RPC造は、高層住宅、ショッピングセンター、事務所ビルや工場などにも用いられている。

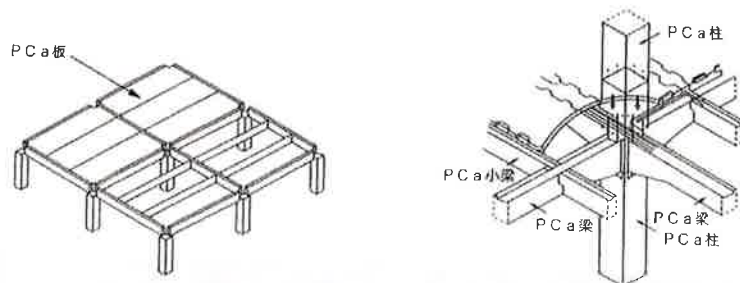


図2-1-4 ラーメン式プレキャストRC造の概要

⑤ フラットスラブ鉄筋コンクリート造
 フラットスラブ鉄筋コンクリート造（以下、フラットスラブRC造という）は、ラーメン式RC造形式の梁を用いなく、スラブをキャピタルと呼ばれる受け版が柱頭部に付いている柱で支持する形式の構造である（図2-1-5）。

キャピタルがなくスラブを直接柱で支持するフラットプレート構造と呼ばれる形式のものもある。

フラットスラブRC造は倉庫や駐車場に用いられている例が多い。

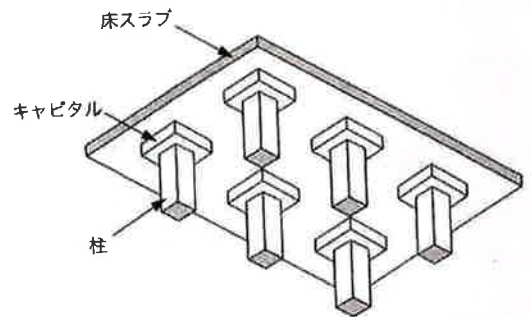


図2-1-5 フラットスラブRC造の概要

⑥ プレストレストコンクリート造
 プレストレストコンクリート造（以下、PC造という）は、建物の主要骨組みのRC部材に対して、PC鋼材を用いてプレストレス（注）を導入し、プレストレストコンクリートにすることにより大スパン架構を形成する構造である（図2-1-6）。

PC造の多くは、建物の主要骨組の一部に使われ、RC造その他の構造と併用することが多い。

プレストレスの導入は、現場でコンクリートを打設した後の部材に、プレストレスを導入するポストテンション方式と、工場でプレストレスを導入し、プレキャストPC部材を製作する時に用いられるプレテンション方式がある。後者の場合はプレキャストPC部材を現場で組立て、接合部にプレストレスを導入してラーメン式架構とすることが多い。

ポストテンション方式はプレストレス導入後PC鋼材とPC部材のコンクリートとの付着及びPC鋼材の発錆防止のためグラウト材が充てんされている。

PC造のコンクリートは一般のRC造より高強度のものが使用されている。

PC造は体育館、倉庫、ボーリング場等大空間を必要とする建物に用いられている。

（注）プレストレス…外力による応力を打ち消すようにあらかじめ計画的に部材に与えられる応力。

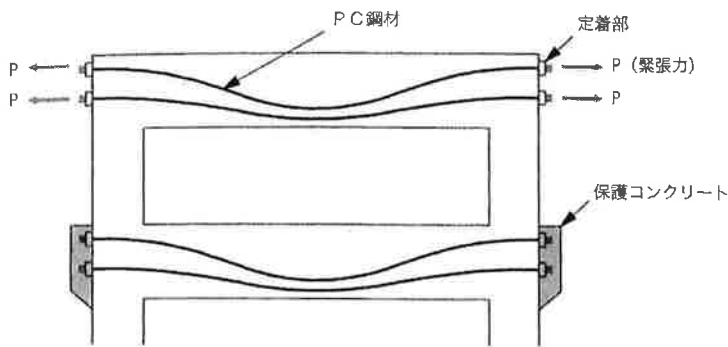


図2-1-6 PC造の概要

また、構造的にPC造とRC造の中間に位置しているプレストレスト鉄筋コンクリート造（以下、PRC造という）がある。PRC造はRC造部材のひびわれ幅やたわみ量をコントロールするために、PC鋼材を用いてプレストレスを導入する構造である。

PRC造はPC造と違い、PC鋼材の周囲をグラウトしないアンボンド工法を採用することが多い。アンボンド工法はPC鋼材の周囲にグリースなどの防錆材を充てんし、表面を被覆してあるアンボンドPC鋼材（図2-1-7）を使用して、PC鋼材とコンクリートとの間に付着の無い状態を保つ工法である。

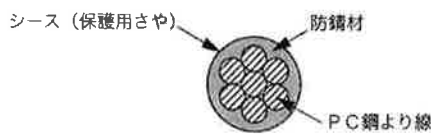


図2-1-7 アンボンドPC鋼材の例

PRC造は小梁やスラブ、特にフラットスラブRC造に多く用いられている。

(2) 鉄骨造

鉄骨造（以下、S造という）は、建物の主要骨組である柱、梁及び建物を構成する他の部材全般について、山形鋼、H形鋼、鋼管又は鋼板などの鋼材を工場加工、成形して部材としたものを現場で組立て、リベット・ボルト・溶接等によって接合した構造である。

S造は建物の規模、用途に応じて多種多様な構造形式があり、使用部材や接合方法も異なる（図2-1-8～9）。

S造に用いられる鋼材は、火災時の高温による強度低下を防ぐため、耐火被覆を必要とする規定があり、岩綿、石綿、モルタル、プレキャスト板などの材料が周囲に取付けられている例が多い。

死亡災害者数の変化

⇒先人の努力(S47年から50年間で、約1/10に減少)

戦後の高度成長期【全産業】

① S47年安衛法制定(効果)
特に仮設足場等の著しい改善
⇒建設企業の懸命の努力
⇒鋼製仮設材の普及(レンタル企業)

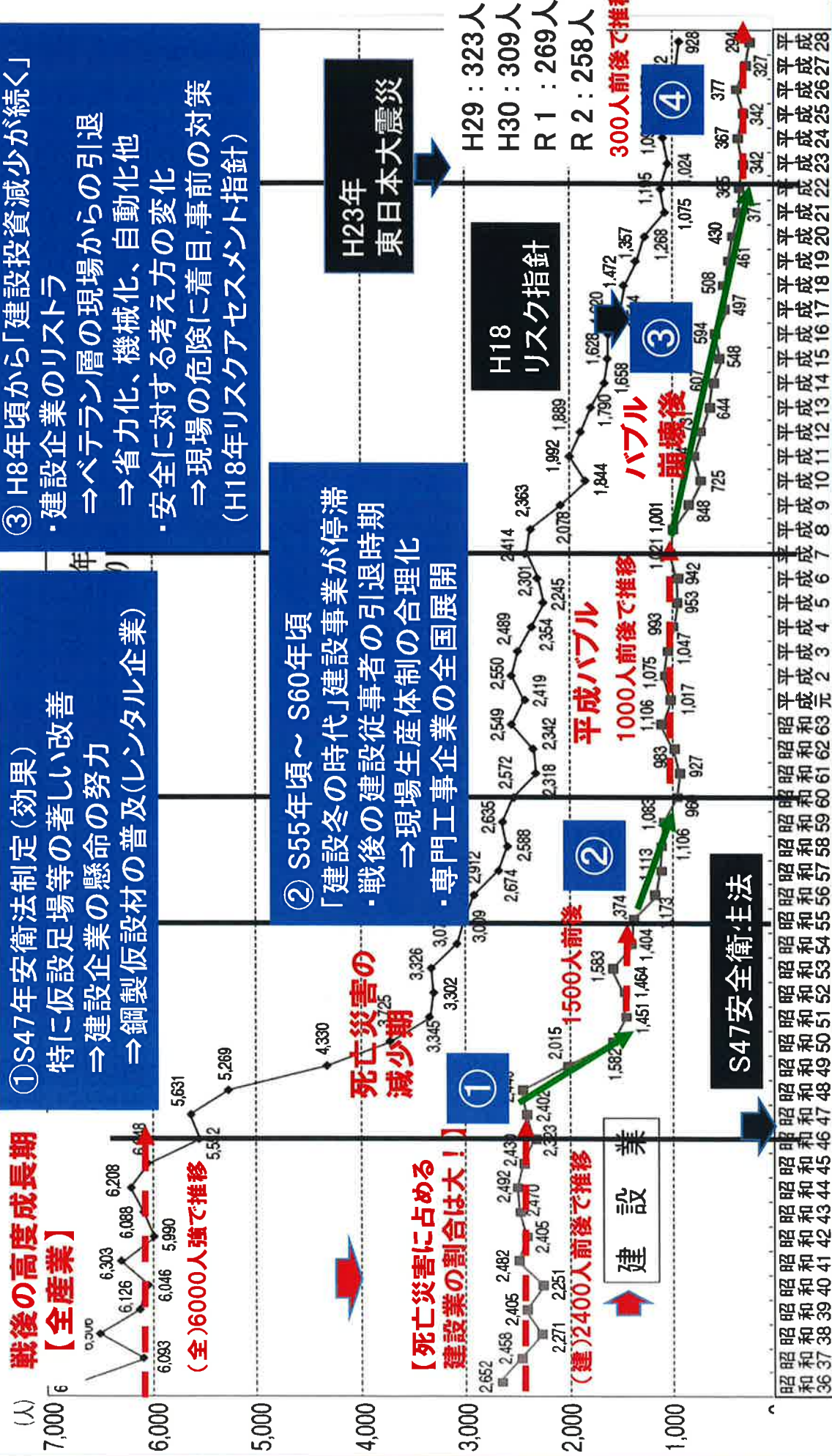
③ H8年頃から「建設投資減少が続く」
・建設企業のリストラ
⇒ベテラン層の現場からの引退
⇒省力化、機械化、自動化他
・安全に対する考え方の変化
⇒現場の危険に着目、事前の対策
(H18年リスクアセスメント指針)

② S55年頃～S60年頃
「建設冬の時代」建設事業が停滞
・戦後の建設従事者の引退時期
⇒現場生産体制の合理化
・専門工事企業の全国展開

H23年
東日本大震災

H29 : 323人
H30 : 309人
R1 : 269人
R2 : 258人
300人前後で推移

H18
リスク指針



④ 人手不足(ベテラン引退、若手入職希望者減他) ⇒ 安全関連ノウハウを、如何に維持、伝承してゆくか？

【全国安全週間】昨年度「安全は 急がず焦らず怠らず」

今年度「高める意識と安全行動 築こうみんなのゼロ災職場」⇒あまり意味のないスローガン？
⇒(労働災害が減少) どのような場合に、労働災害発生が発生するのか、経験がない！ ⇒ 今後の課題